

平成24年5月17日の北國新聞に掲載されました。

当院でも実施できます。予約が必要です。お問い合わせ 243-6888

金大が開発し、血液の遺伝子解析によって消化器系がんに有無を判定できる検査法が、インドで事業化される見通しとなった。同大発のバイオベンチャー企業「キュービクス」(野々口市)が16日までに、インドの企業と事業提携契約を結んだ。今年中に臨床性能試験を実施し、来年にも検診事業を開始する。

この検査法は「マイクロアレイ血液検査」と呼ばれ、がんに関係する遺伝子載せた「DNAチップ」を使い、患者の血液から抽出した遺伝物質を解析する。金大医薬保健研究域医学系の金子周一教授のグループとキュービクスが共同で研究開発し、特許を取得した。国外の企業との提携はドイツに続き2例目となる。

キュービクスによると、検査法は昨年8月に商品化され、石川県内では金沢市の北陸病院、七尾市の恵寿総合病院、白山市の公立松任石川中央病院、加賀市の山中温泉医療センターなどが導入している。砺波市の砺波総合病院などと合わせて国内24施設で約200例の実績がある。

# 血液でがん検査

## インドで事業化

### 金大開発、現地企業と契約

### 年内に臨床試験

企業「アバスタージェン」。米国で2010年に開催された展示会をきっかけに、技術移転機関「金大TLO」を通して交渉が進められ、今年3月に締結した。

中近東でも展開狙う  
計画では、インド国内で約300例の臨床試験を実施し、性能を確認する。アバスタージェン社の支店がある中近東やシ

ンガポールでの展開も目指す。キュービクスはDNAチップを輸出するほか、検査や解析の手法を指導する。

キュービクス社の丹野博社長は「インドは巨大な市場。富裕層を中心に健康診断への関心が高い」と期待する。今後は消化器系のほか、肺や乳房、子宮、前立腺などのがんも一度に発見できる新検査法の開発も目指す。



血液の遺伝子を調べる丹野社長(奥)と野々口市末松3丁目

マイクローアレイ血液検査「DNAチップ」に患者の血液から抽出したRNA(リボ核酸)を垂らし、各遺伝子の反応を解析する仕組み。1回の採血(2・5cc)で、胃や大腸、すい臓など消化器系がんに有無が9割以上の精度で判定できる。